

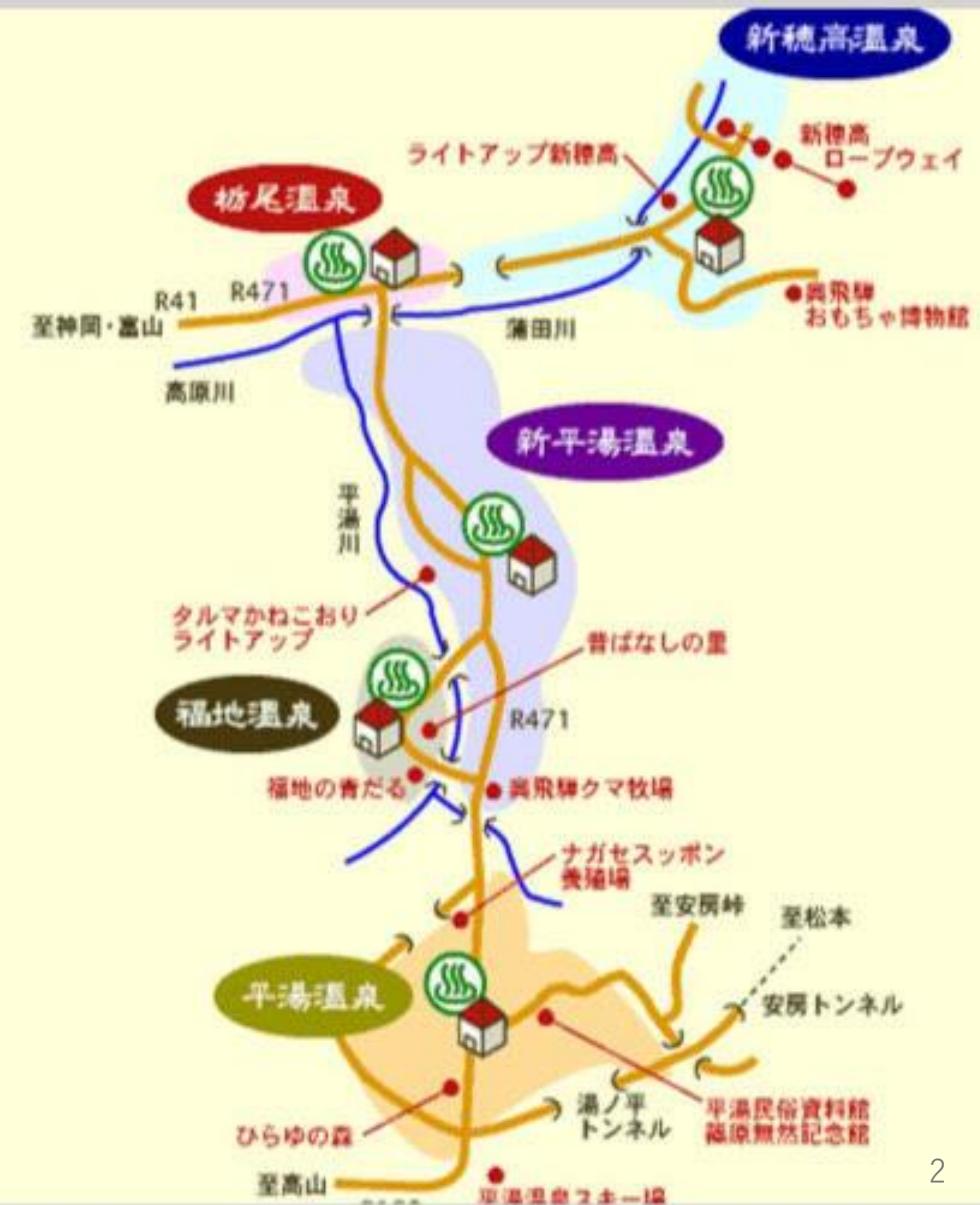
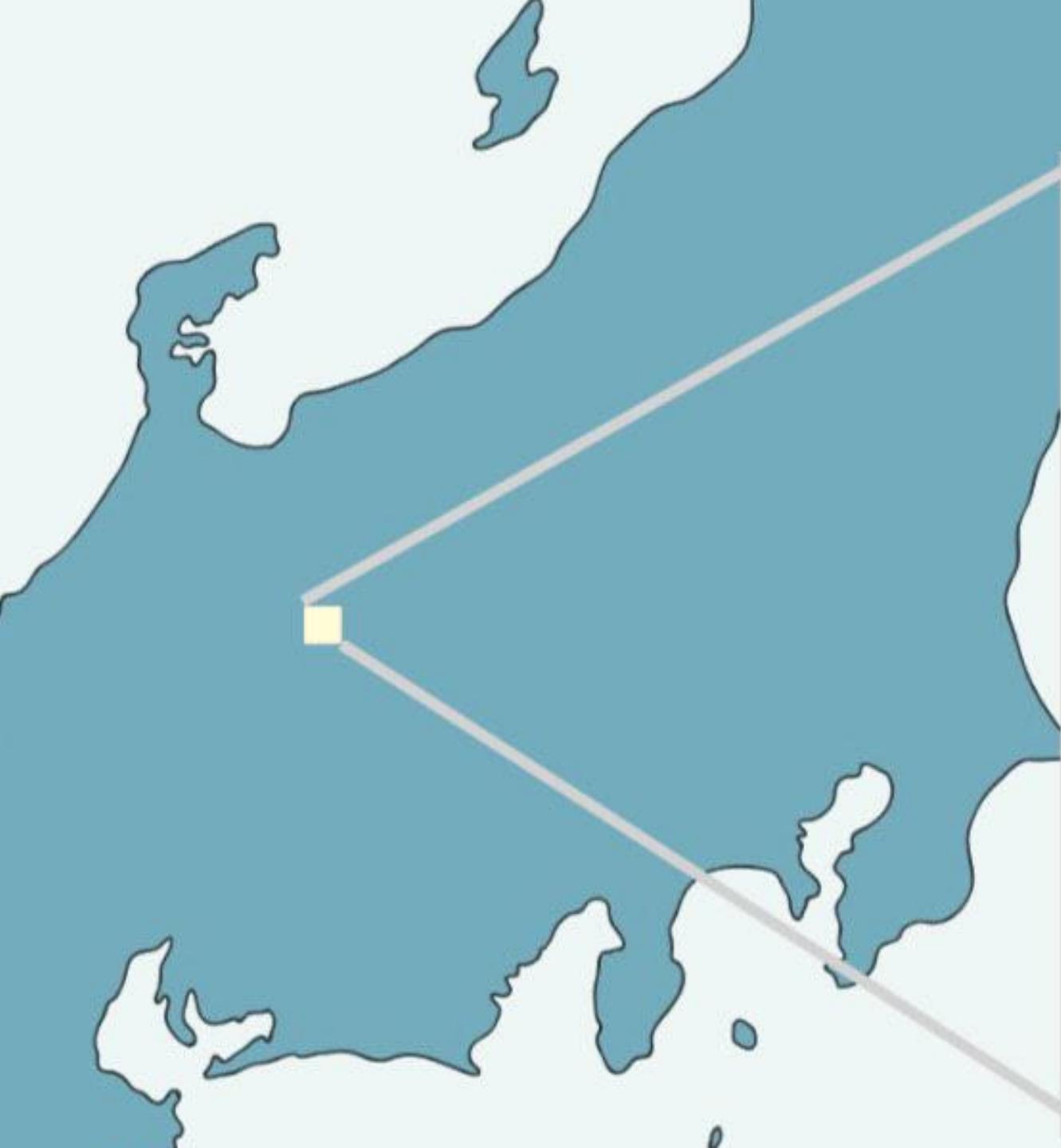


持続性ある奥飛騨温泉郷 インターンシップ事業の実現をめざして

名古屋外国語大学
現代国際学部 国際教養学科

池田桃, 太田来春, 加藤智也, 熊田和輝, 小坂晴南, 長友那光夏,
福寄千晴, 松村愛良, 山こころ, 横澤悠菜, 吉川里桜, 和田彩羽

奥飛騨温泉郷



1. 発表内容

- 1) 事業の実施状況
- 2) 持続性ある事業の実現



2. 方法・期間

【募集対象】

全国の大学生、短大生、専門学生

【募集期間】

2025年5月20日(火) ~7月31日(木)

【募集方法と採用までの流れ】

- ①広報
- ②応募申し込み
- ③採用の可否



北アルプスのふもと、自然美と癒しの郷愁

奥飛騨温泉郷

intern
ship



あなたなりのomoてなしを

この夏、奥飛騨で。

インターンシップの目的

当インターンシップは、奥飛騨温泉郷の旅館において人材育成と地域の魅力を発信し、観光促進に寄与することを目指しています。

開催日程 2025年8月から9月まで

※各旅館によって開催時期が異なります。



OKUHIDA_INTERNPROGRAM

プロジェクト
名古屋外国语大学
国際教養学科

佐藤ゼミナール

Email: info.connect.sato@gmail.com

参加旅館

- いろりの宿かつら木の郷
- 元湯孫九郎
- 湯元長座
- 山里のいおり草円
- もずも



■ インターンシップ目的

奥飛騨温泉郷の旅館でのインターンシップを通して人材育成と地域の魅力発信を図り、観光促進に貢献することを目的としています。

■ 開催日程

2025年8月～9月

※各旅館によって時期が異なります

名古屋外国语大学 国際教養学科 佐藤ゼミナール

Email: info.connect.tsato@gmail.com

参加旅館

- ・ いろりの宿かつら木の郷
- ・ 元湯孫九郎
- ・ 山里のいおり草円
- ・ 湯元長座
- ・ もずも



OKUHIDA_INTERNPROGRAM



3. 結果

応募者数：18名

採用者数：15名（1名は採用後辞退）

他大学からの問い合わせ：2名

応募者数：1名

採用者数：0名

各旅館に配置されたインターン生の内訳



A旅館	B旅館	C旅館	D旅館	E旅館
4名	1名	1名	2名	6名

インターン生の目標

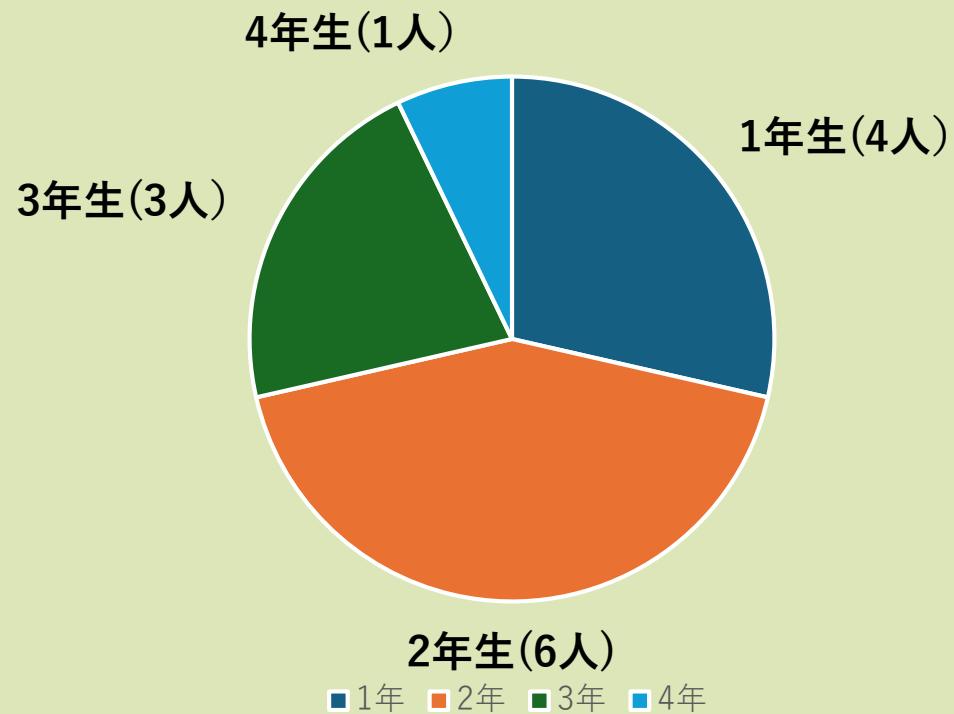


直感 、 冷静 看ける 恐れる 海外 切り替える
できる 生かす 一歩 磨く 要点 最上級 対応
あたたかい おもてなし ホスピタリティ ミス
言葉遣い 臨機応変 サービス業 動く
楽しむ ふさわしい 持つ
気配り 高める コミュニケーション
失敗 流暢 作法 行動 協働 応じる 関わる 状況
向上 お客様 とる もてる 端的 れやすい 物事 自ら 意識
良い 広い 届ける 間違える つける
※ ユーザーローカルテキストマイニングツール
(<https://textmining.userlocal.jp>) による分析

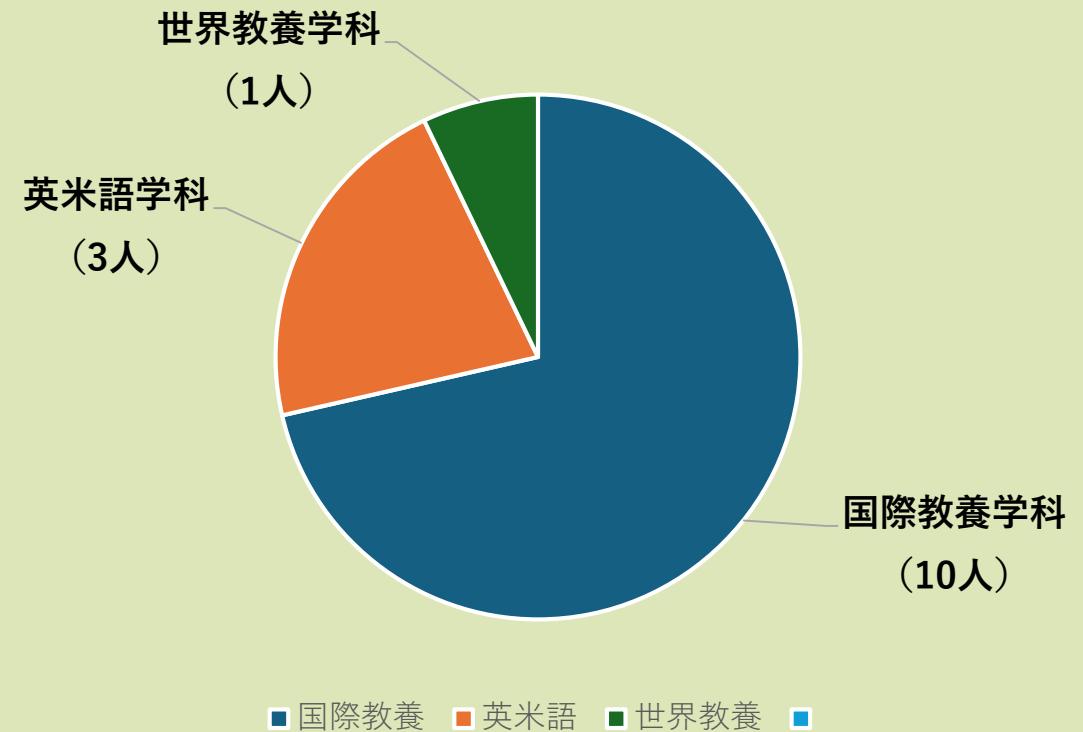
インターン生のプロフィール



学年別参加者の数 (n=14)



学科別参加者の数 (n=14)



学年では2年生が最も多く、学科では国際教養学科の学生が多い



4. 昨年度の教訓を踏まえた事業実施状況

【改善できた内容】

- 1) 昨年度のインターン生の体験談や旅館側の声をSNSで紹介
- 2) アルバイトとの差異化のため旅館のインターン生担当者による中間・最終フィードバックの強化
- 3) 運営側で担当制を設け、旅館側とのより円滑な連絡を促進
- 4) 8時間の労働時間の徹底と報酬の統一化

5. インターンシップ事業評価

5-1. インターン生側からの視点



【調査方法】

Google Classroom上で、参加者にインターンシップ前後の事前・事後アンケート調査の実施

【項目】

- ・取り組んだ業務内容
- ・自己評価
- ・事業参加における自身の目標（目指す姿、習得したいスキル）
- ・インターンシップを通して学んだこと



業務内容

接客

配膳、フロント業務、お茶出し、館内説明、
部屋の案内、お見送り

裏方業務

清掃（客室、浴場）、皿洗い、布団敷き・片付け

自己評価



- ・ **前に踏み出す力・思考する力**

自ら物事に進んで取り組む、 粘り強く取り組む
目的と課題を明らかにする

- ・ **チームで働く力**

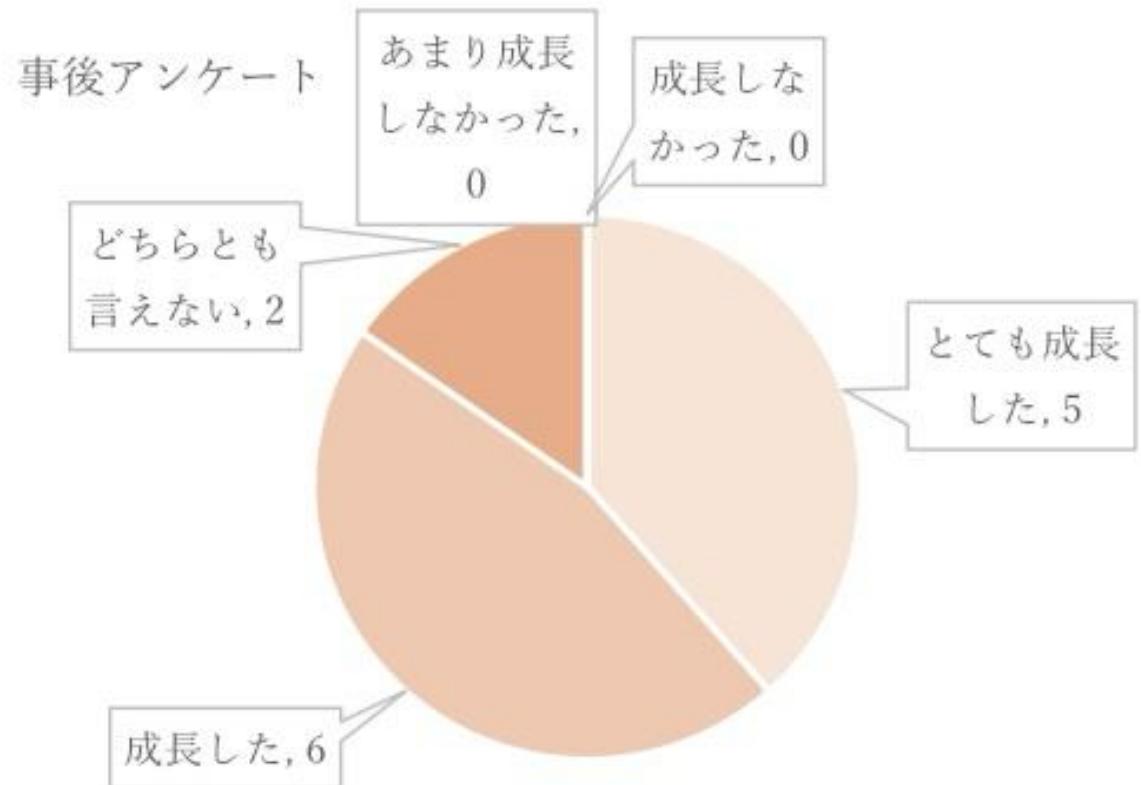
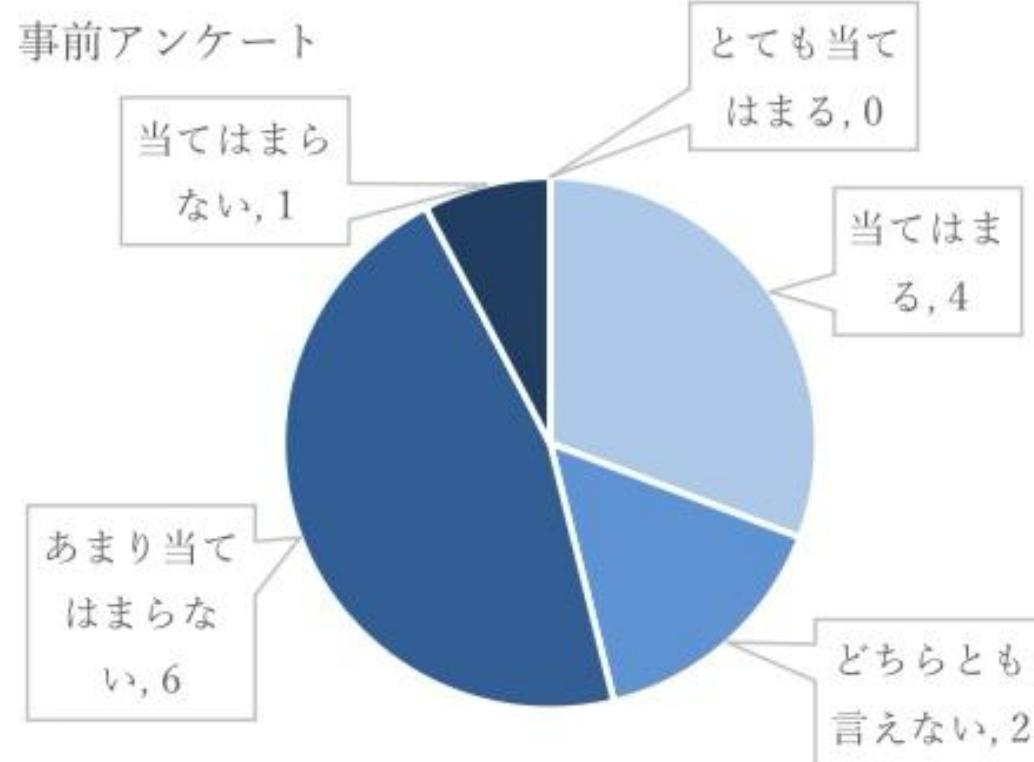
自分の意見をわかりやすく伝える、 状況判断する
メンバーの意見をていねいに聞く

- ・ **おもてなしの力**

礼儀・マナーを守る、 客への言葉遣いに気を付
ける、 客との会話を楽しむ、 冷静に物事に対処する

チーム内で自分の意見をわかりやすく伝える

(n = 13)



インターンシップを通して学んだこと



接客・おもてなし

- ・敬語・表情・所作など非言語の重要性
- ・世間話を通じたお客様のニーズ把握
- ・スタッフ間の連携・確認の大切さ
- ・接客英語を実践し、外国人対応を経験

地域・文化への理解

- ・郷土料理や観光地を学び、地域文化を理解

自己成長

- ・自発的に行動し、反省を次に活かす
- ・業務の優先順位を考え、主体的に行動
- ・お客様の期待を意識した対応力向上



5. インターンシップ事業評価

5.2 旅館側からの視点

【調査実施時期】

2025年10月18日(土) ~10月20日(月)

【調査方法】

対面での聞き取り調査

【調査項目】

- 1) インターンシップの全体評価
- 2) 受け入れ側の今後の対応



旅館側からの視点

【結果】

1) インターンシップ全体評価

- ・**実際のインターンの期間、時期、勤務時間は適切であったか**
→ 2週間では短いと感じる旅館が多かった
- ・**本事業は人材不足解消に繋がったか**
→ 全旅館から人材不足の解消に繋がったとの回答を得た。

旅館側からの視点



【結果】

2) 受け入れ側の今後の対応

- ・ **来年も本事業を継続するか**

全旅館から来年も継続したいとの回答を得た。

- ・ **今後どんな人材を求めるか**

- ・ 3週間以上参加できる学生を求める
- ・ 1.2年生は旅館に活気をもたらすため、より魅力的
- ・ 就活を終えた3.4年生には長期インターン

6. 考察

- SNS発信による人材の拡がり
- 旅館側のフィードバック強化により学びの質が向上
- 短期型（2週間以内）から長期（2週間以上）・継続型への転換の必要性
- 季節需要などを考慮した運営体制の構築



7. 今後の展望

～持続性ある事業の実現を目指して～



1. 繁忙期の再度のインターンシップ参加
2. 地域との継続的な関係維持の仕組みづくり
3. SNS強化による人材確保

